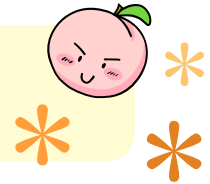


じゅうごや はなし 十五夜のお話（小）



みなさん、こんにちは。今日10月4日は「十五夜」です。十五夜は、一年中で月がもっとも美しく見える夜のことで、この日の月は、「中秋の名月」とよばれます。

昔の暦では、7月、8月、9月が秋でした。3か月ある秋の真ん中の8月15日が「十五夜」です。

現在の暦では、十五夜は、年によってちがいで、9月の中旬から10月のはじめの間になります。満月のこともあります、1日から2日ずれることが多いです。

平安時代には、貴族たちが月を見て楽しみ、江戸時代になると、月を見るだけでなく、食べ物の収穫に感謝する「収穫祭」の意味も加わりました。

収穫への感謝と豊作を願って、満月のような丸いだんごを供え、だんごを食べることで、健康と幸せを手に入れようと考えました。

だんごの形は地方によって違い、丸いもののほかに、丸型で真ん中をくぼませたもの、名古屋あたりで見られるさといも型のもの、周りにあんこをつけたものなど、いろいろあります。

そして、稲に似たすすきをかざることで、米がたくさんとれるように、いのりました。

さあ今夜は、すすきとだんごをかざって、お月見をしましょう。